

令和7年3月26日

太田市議会議長 高田 靖 様

志友会 代表 松浦 武志

会派行政視察報告書

- 1 期間 令和6年10月17日（木）～10月18日（金）
- 2 視察先 兵庫県姫路市（第86回全国都市問題会議 会場：アクリエひめじ）
- 3 会議テーマ 健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～
- 4 参加者 松浦武志、長正祐、八長孝之、松川翼、青木雅浩

5 会議日程

第1日：令和6年10月17日（木）

開会式

開会挨拶 全国市長会会長 広島県広島市長 松井一實
開催市市長挨拶 兵庫県姫路市長 清元秀泰
来賓祝辞

基調講演

生命を捉えなおす一動的平衡の視点から－
生物学者／青山学院大学教授 福岡伸一

主報告

市民の「LIFE」（命・暮らし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり
兵庫県姫路市長 清元秀泰

一般報告

生き物から学ぶ健康なまちづくり
筑波大学システム情報系教授 谷口 守

都市そのものを健康にするまちづくり
～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～
千葉県流山市長 井崎義治

IT/AI の健康分野への適用例
～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～
兵庫県立大学副学長 畑 豊

第2日：令和6年10月18日（金）

パネルディスカッション

【テーマ】

健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～

【コーディネーター】

中央大学法学部教授 宮本太郎

【パネリスト】

高岡病院児童精神科医	三木崇弘
NPO 法人日本栄養パトネット理事長	奥村圭子
長野県茅野市長	今井 敦
大阪府泉大津市長	南出賢一

6 所感

第1日の基調講演では、生物学者であり青山学院大学教授の福岡伸一氏が、「生命」に関する講演を行った。福岡氏は、動的平衡の視点を踏まえ、生命体は単なる新陳代謝ではなく、絶えず動きながら作り直されている存在であると説明した。そして、生命現象ではあらゆるものが壊されることを予定され、作られているという。また、生命の有限性については、「死は最大の利他的行為であり、死があって進化がある。」と述べた。これまで、生命の動的平衡の視点を持ち合わせていなかったため、この視点は新鮮であった。

続く主報告では、兵庫県姫路市長の清元秀泰氏が、姫路の健康づくりとまちづくりに関して報告した。姫路駅から姫路城までのシンボルロード（大手前通り）を「ウォーカブルなまちづくり」の主軸に据えている。シンボルロードを人に楽しんでもらい、市民が街に出るきっかけづくりを狙いとしている。また、楽しく1日1万歩を歩けるまちとして、健康寿命延伸も狙いであり、認知機能の活性化やフレイル発症の抑制が期待されている。加えて、マイナ保険証を活用した救急業務の迅速化や円滑化、フレイル予防アプリの導入、こどもの未来健康支援センター「みらいえ」の開設等、多岐にわたる施策が紹介された。姫路市が健康づくりとまちづくりを一体的に推進している点は、先進事例であると感じるとともに、太田市においても今後、東武鉄道太田駅南口周辺における「ウォーカブルなまちづくり」を念頭に

した事業が予定されているため、参考事例であると考え。

一般報告では、筑波大学システム情報系教授の谷口守氏が、「生き物から学ぶ健康なまちづくり」と題して報告を行った。トランジットモールやパーソントリップ調査、コンパクトシティ、Authentic（本物であること）等について言及した。特に「歩く習慣のある健康な市民」の存在が「都市全体の健全性（良い歩きを誘発する都市体質）」につながっており、相互が好循環を生み出しているとの説明が印象的であった。

また、千葉県流山市長の井崎義治氏は、主に流山市のマーケティング戦略について報告した。その戦略は3つあり、1つ目は流山市の目指す都市（商品）イメージ「都心から一番近い森のまち」である。2つ目は定住人口増加策で、メインターゲットを共働きの子育て世代としている。3つ目は、交流人口増加策で、質が高く集客力の高いイベントや地域資源を活かしたツーリズムである。これらのマーケティング戦略に関連して、認可保育施設の拡充や駅前送迎保育ステーション、要配慮児童保育コンシェルジュ、グリーンチェーン認定制度等について言及した。全国的に少子高齢化による人口減少が課題となる中、流山市の人口は増加傾向にある。太田市は現在、人口減少の局面を迎えていないが、将来を見据える中で、流山市の事例も参考となる部分があると感じた。

さらに、兵庫県立大学副学長の畑豊氏は、主に健診データ解析と歌唱による誤嚥予防について報告した。高齢男性には特に大きな声を出すことが誤嚥予防に有効であるとのことで、具体的にはカラオケ等の歌唱が推奨された。また、男女間でのデータの差異の大きさについて興味深い指摘があった。

第2日のパネルディスカッションでは、中央大学法学部教授の宮本太郎氏をコーディネーターに、4名のパネリストにより意見が交わされた。高岡病院児童精神科医の三木崇弘氏は子どもの健康面等について、NPO 法人日本栄養パトネット理事長奥村圭子氏は栄養パトロール等について、長野県茅野市長今井敦氏は「デジタル田園健康特区」等について、大阪府泉大津市長の南出賢一氏はオーガニック食材を使用した食育の推進等について、それぞれ説明を行い、議論が交わされた。

総括として、第86回全国都市問題会議においては、2日間にわたり、健康に関する多角的な視点からの講演や報告、パネルディスカッションが展開された。我が国においては、少子高齢化による人口減少が重大な課題となっているが、一方で健康寿命は延伸している。市民が幸せを享受しながら人生を送るためには、多くの市民が健康であることが重要である。今回の視察で得た知見を、太田市民の健康づくりにつなげるよう、今後活かしていきたいと考える。

